



きょうどうせいかつえんじょじぎょうしょ にゆうきよしゃ
共同生活援助事業所における入居者の
けっこんとう かか じったいちようさ
結婚等に係る実態調査
けっかほうこくしょ
結果報告書

れいわ ねん ねん がつ
令和5年（2023年）6月

ほっかいどうほけんふくし ぶ ふくしきよくしやう しゃほけんふくしか
北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

ちょうさがいよう
調査概要 2

ちょうさけっか
調査結果

1 ^{りようしゃ}利用者 (^{かぞく}家族) 3～13

2 ^{かんりしゃ}管理者 14～36

3 ^{さんこう}参考 (^{りようしゃ}利用者の^たその他の^{いけん}ご意見) 37～48

きょうどうせいかつえんじょじぎょうしょ
共同生活援助事業所における
 にゅうきょしゃ けっこんとう かか じったいちょうさがいよう
入居者の結婚等に係る実態調査概要

1 調査の概要

(1) 目的

共同生活援助事業所における入居者等の結婚等について、入居者の思いや考え、事業所側が感じている支援上の課題を把握・分析し、対応策を検討することを目的に実施。

(2) 調査対象

道が所管する全ての共同生活援助事業所（グループホーム）の利用者ご本人、管理者

(3) 調査方法

① ご本人

各事業所宛てに、回答に協力いただく利用者数の調査を事前に行い、当該調査に回答があった分のアンケート用紙について、障がい者保健福祉課から発送し、各事業所は当該アンケート用紙を利用者ご本人に配布し、回答後、返送。

② 管理者

各総合振興局（振興局）を経由し、各事業所にアンケート調査の回答依頼を通知。管理者は、パソコンやスマートフォンを用いて北海道電子自治体共同システムへアクセスしてインターネットにより回答。

(4) 調査期間

- ① ご本人 令和5年2月28日（火）～4月30日（日）
- ② 管理者 令和5年1月30日（月）～2月28日（火）

(5) 対象者及び回答数

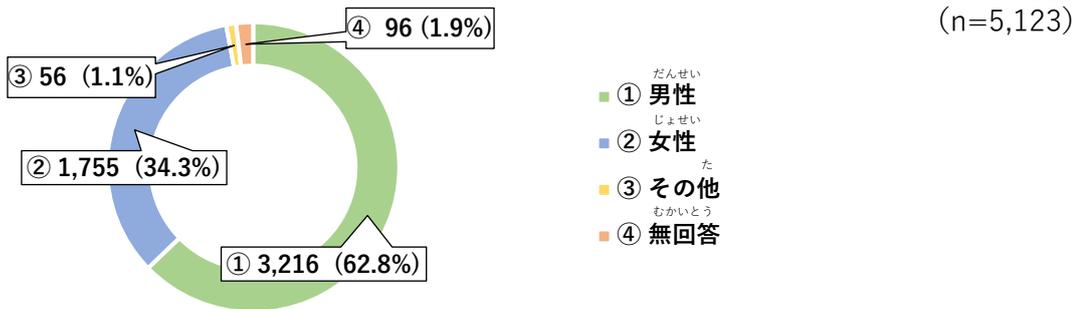
対象 事業所数	対象者数 (A)		有効回答数 (B)	回収率 (B/A)
399 共同生活 援助事業所	ご本人	8,741人	5,123人	58.6%
	管理者	399人	274人	68.7%
	計	9,140人	5,397人	59.0%

2 調査結果 (ご本人あて調査)

(1) ご本人の性別・年齢

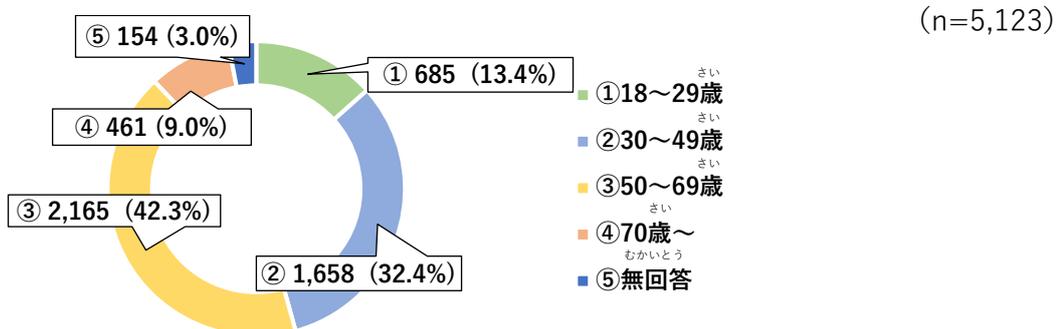
問1 性別

* 利用者本人の性別は、「①男性」が62.8%となっており、「②女性」は34.3%となっています。



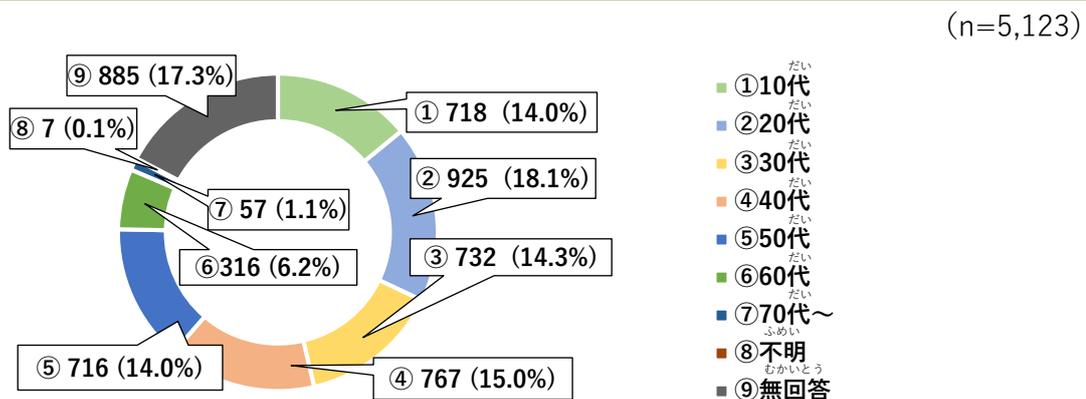
問2 年齢

* 入所者本人の年齢は、「③50～69歳」が42.3%と最も多く、次いで「②30～49歳」が32.4%、「③18～29歳」が13.4%となっています。



問3 最初にグループホームに入った年齢

* 最初にグループホームに入った年齢は、「②20代」が18.1%と最も多く、次いで「④40代」が15.0%、「③30代」が14.3%となっています。

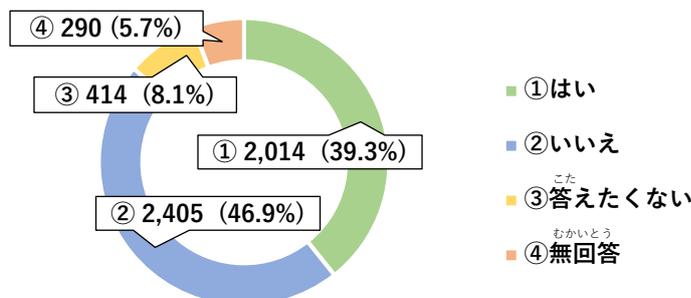


(2) 交際に関する相談状況

問4-1 これまでに交際したと思ったことの有無

* これまでに交際したと思ったことがあるかについては、「①はい」が39.3%、「②いいえ」が46.9%となっています。

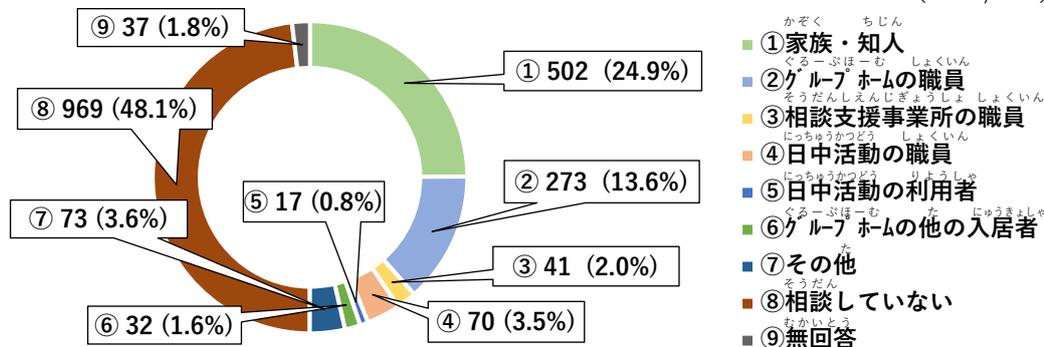
(n=5,123)



問4-2 交際したと思ったときの相談先

* 交際したと思ったときの主な相談先については、「⑧相談していない」が48.1%と最も多く、次いで「①家族・知人」が24.9%、「②グループホーム職員」が13.6%となっています。

(n=2,014)



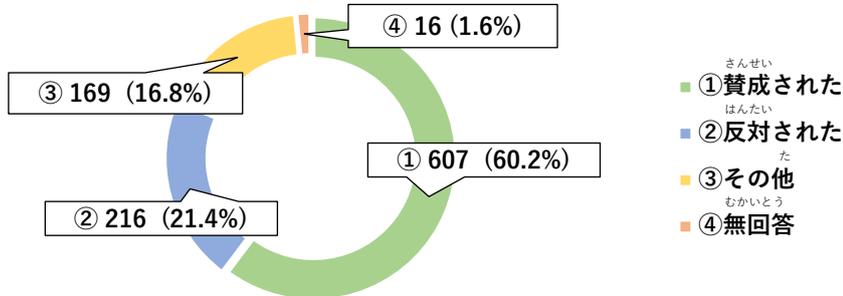
< 「その他」の主なもの >

学校の先生
主治医や看護師
その他の障害福祉サービス事業所職員
同僚
相手の家族

問4-3 交際について相談した相手からの賛否

* 交際について相談した相手からの賛否については、「①賛成された」が60.2%、「②反対された」が21.4%となっています。

(n=1,008)



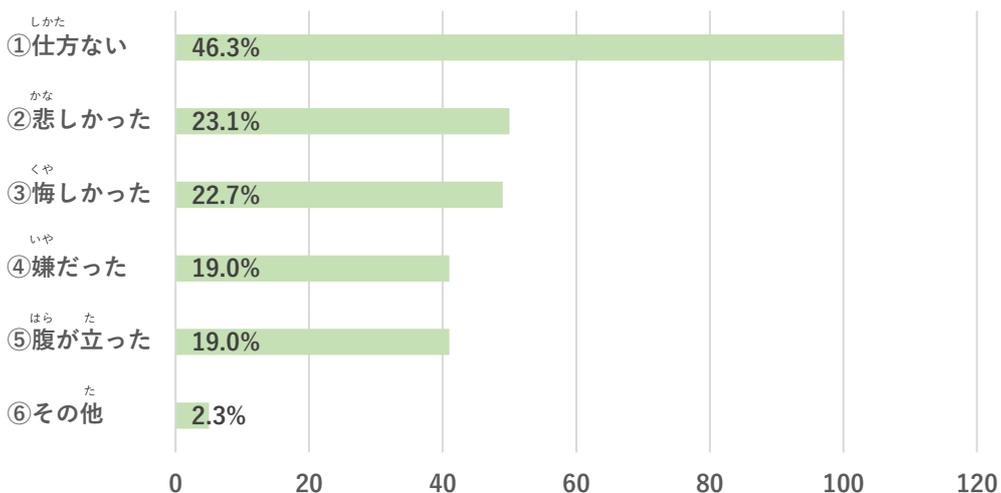
< 「その他」の主なもの >

賛成も反対もされなかった、何とも言われなかった
心配された
賛否が分かれた
アドバイスをされた

問4-4 交際について反対されたときの気持ち (複数回答あり)

* 交際について相談した相手から反対されたときの気持ちについては、「①仕方ない」が46.3%と最も多く、次いで「②悲しかった」が23.1%、「③悔しかった」が22.7%となっています。

(n=216)



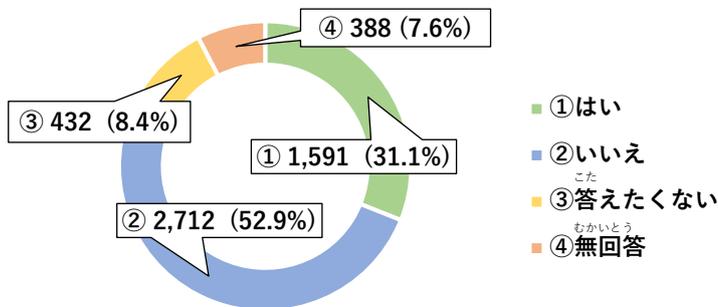
< 「その他」の主なもの >

自分には愛する資格がないのだと思った
それでもいいと思った
普通の人として見てほしかった

(3) 結婚や同居に関する相談状況

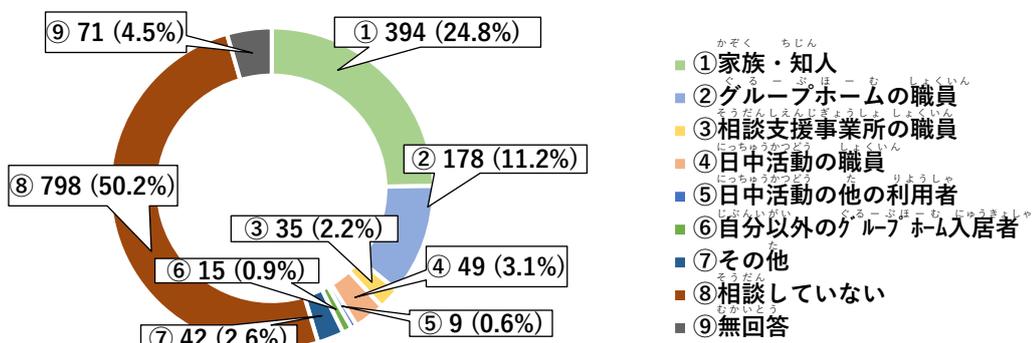
問5-1 これまでに結婚や同居したいと思ったことの有無

* これまでに結婚や同居したいと思ったことがあるかについては、「①はい」が31.1%、「②いいえ」が52.9%となっています。



問5-2 結婚や同居したいと思ったときの相談先

* 結婚や同居したいと思ったときの主な相談先については、「⑧相談していない」が50.3%と最も多く、次いで「①家族・知人」が24.8%、「②グループホーム職員」が11.2%となっています。



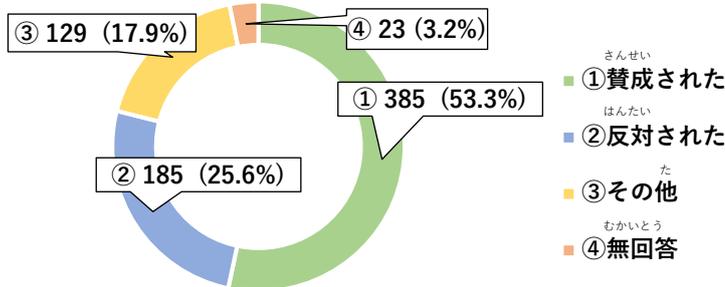
< 「その他」の主なもの >

交際相手
主治医や看護師
その他の障害福祉サービス事業所職員
同僚
相手の家族
ケースワーカー

問5-3 結婚や同居について相談した相手からの賛否

* 結婚や同居について相談した相手からの賛否については、「①賛成された」が53.3%、「②反対された」が25.6%となっています。

(n=722)



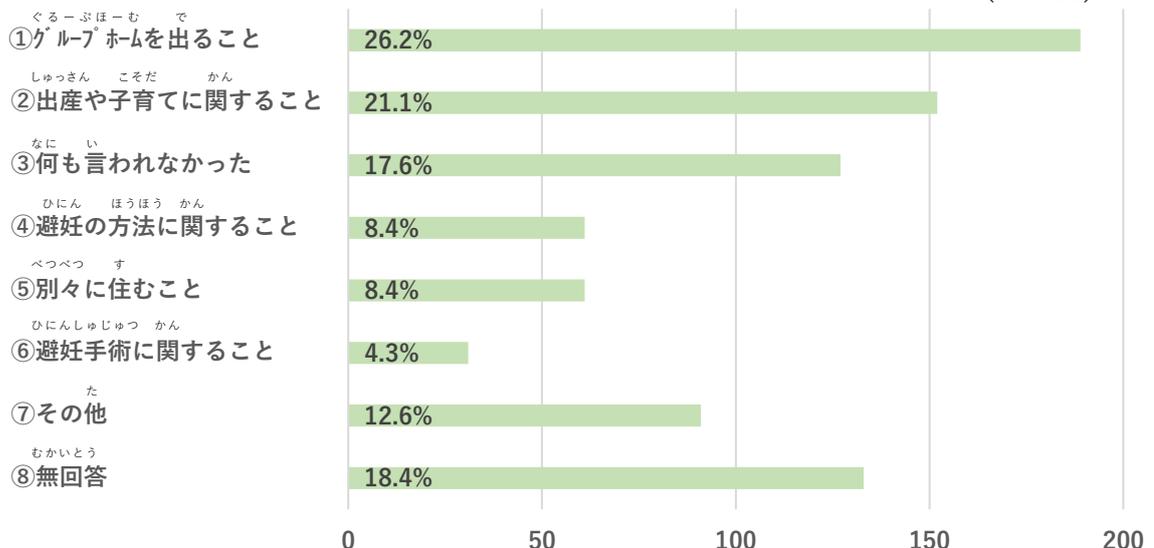
< 「その他」の主なもの >

賛成も反対もされなかった、何も言われなかった、曖昧な反応だった
将来的には賛成だがまだ早いと言われた（病状面や経済的な理由など）
家族内で賛否が分かれた

問5-4 結婚や同居について相談した際にあった話（複数回答あり）

* 結婚や同居について相談した相手からされた話については、「①グループホームを出ること」が26.2%と最も多く、次いで「②出産や子育てに関すること」が21.1%、「③何も言われなかった」が17.6%となっています。

(n=722)

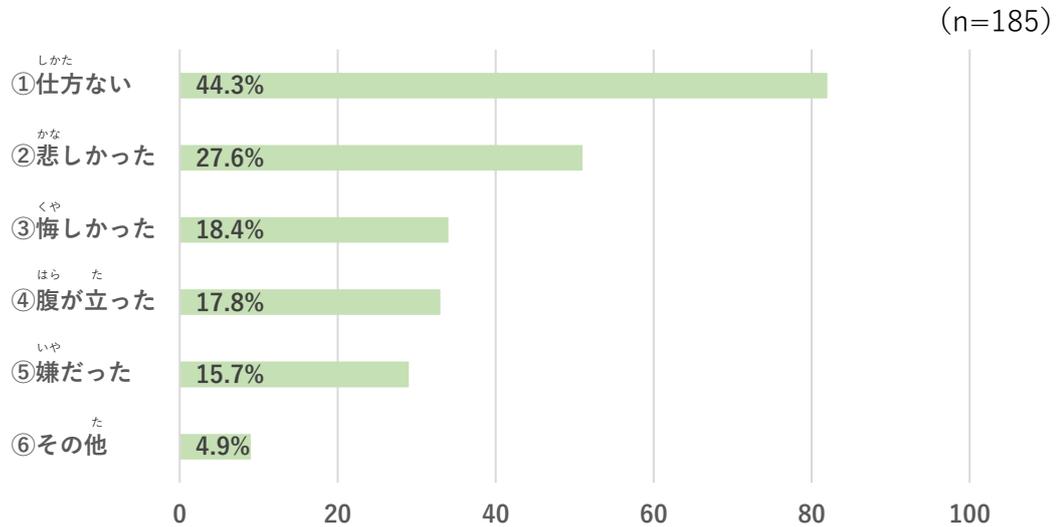


< 「その他」の主なもの >

家事や身の回りのこと
仕事、経済面のこと
住居のこと、同居すること

問5-5 結婚や同居について反対されたときの気持ち（複数回答あり）

* 結婚や同居について相談した相手からの賛否については、「①仕方ない」が44.3%と最も多く、次いで「②悲しかった」が27.6%、「③悔しかった」が18.4%となっています。



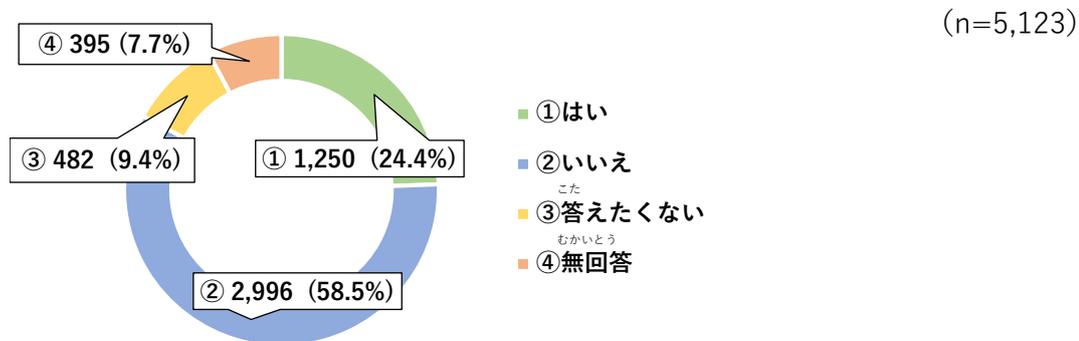
< 「その他」の主なもの >

それでも良いと思った
もっとちゃんと向き合ってほしかった
さみしかった
今となっては良かったと思う

(4) 出産や子育てに関する相談状況

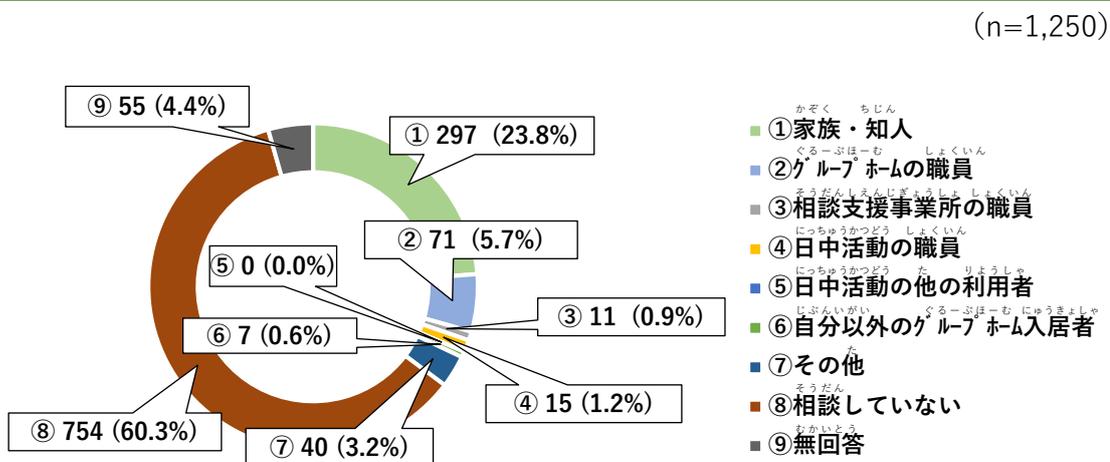
問6-1 これまでに子どもがほしいと思ったことの有無

* これまでに子どもがほしいと思ったことがあるかについては、「①はい」が24.4%、「②いいえ」が58.5%となっています。



問6-2 子どもがほしいと思ったときの相談先

* 子どもがほしいと思ったときの主な相談先については、「⑧相談していない」が60.3%と最も多く、次いで「①家族・知人」が23.8%、「②グループホーム職員」が5.7%となっています。



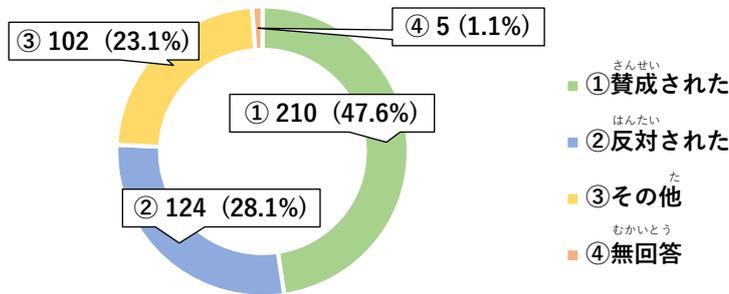
< 「その他」の主なもの >

あいて 相手
しゅじい 主治医

問6-3 子どもがほしいことについて相談した相手からの賛否

* 子どもがほしいことについて相談した相手からの賛否については、「①賛成された」が47.6%、「②反対された」が28.1%となっています。

(n=441)



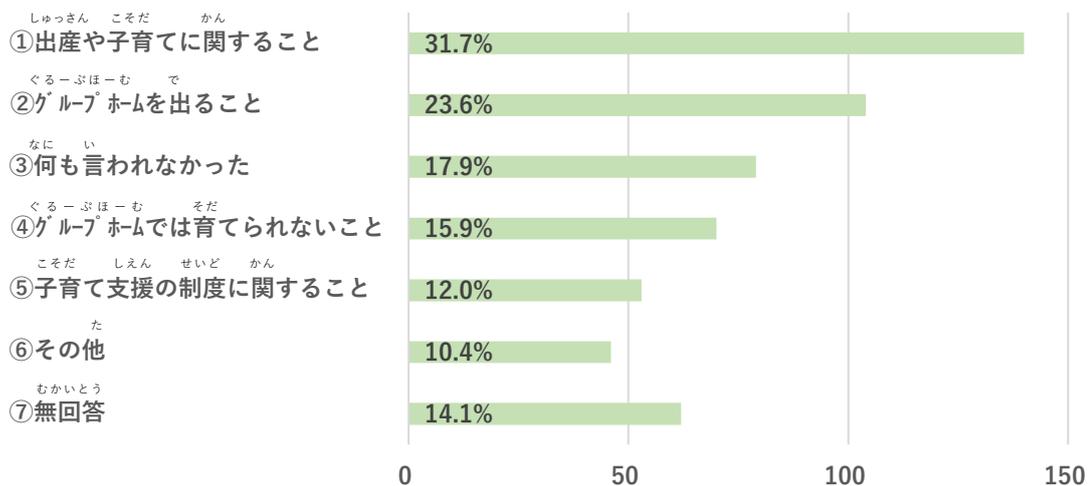
< 「その他」の主なもの >

賛成も反対もされなかった、何とも言われなかった
病状から難しいのではないかと言われた
まだ早いのではないかと言われた

問6-4 子どもがほしいことについて相談した際にあった話（複数回答あり）

* 子どもがほしいことについて相談した相手からされた話については、「①出産や子育てに関すること」が31.7%と最も多く、次いで「グループホームを出ること」が23.6%、「③何も言われなかった」が17.9%となっています。

(n=441)

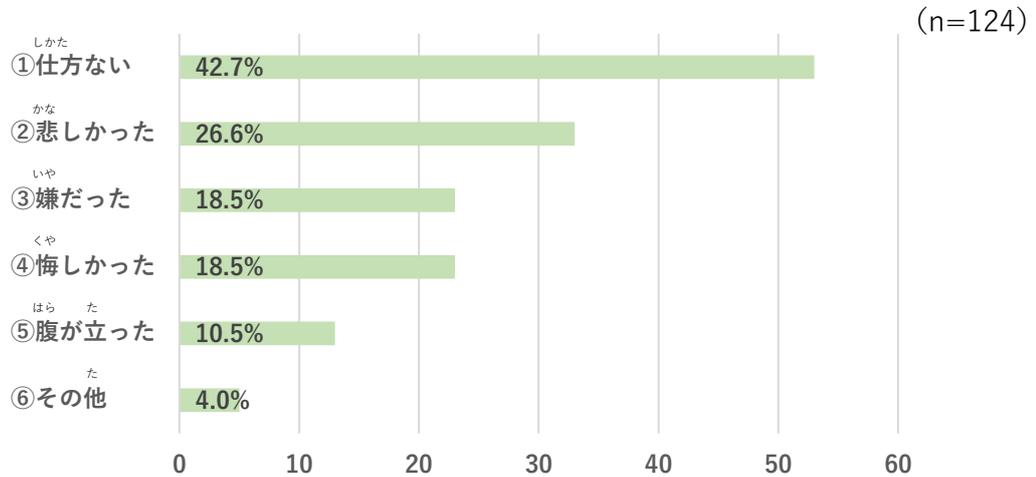


< 「その他」の主なもの >

服薬中の薬の胎児への影響について
経済面のこと
覚えていない

問6-5 子どもがほしいことについて反対されたときの気持ち（複数回答あり）

* 子どもがほしいことについて相談した相手からの賛否については、「①仕方ない」が42.7%と最も多く、次いで「②悲しかった」が26.6%、「③嫌だった」及び「④悔しかった」が18.5%となっています。



<「その他」の主なもの>

反対する理由を明確にしてほしかった
育てられないと決めつけられている感じがした
さみしかった
なさけない気持ち

(5) その他 (ご本人の想いや考えを自由に記載)

問7 その他 (自由記載)

- * その他の記載 (全753件) のうちの主なもの (15件) を抜粋して掲載。
- * 巻末に全ての意見を掲載しています。

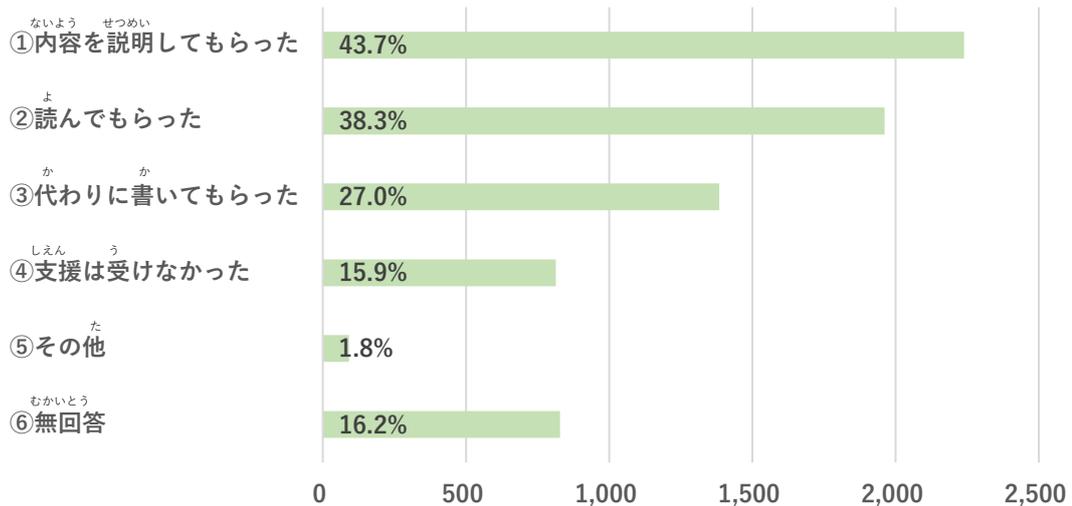
性別	年齢	内容
男性	18～29歳	結婚したとしてその後子供が出来て子育て仕事を両立できるのか？性教育をしっかりとしたほうが良いと思った。離婚せずに無事に子育てを終えられて老後までくらせるのかなど不安がある。収入、生活、子育てについて学んだり、経験者の話を聞ける機会があれば良いと思う。
男性	18～29歳	子どもが欲しいと思ったことはあるが、子どもができるということは、自分の子孫を残すということで、自分も今まで以上にしっかりとしなければいけないという思いがある。そう考えた時に「自分はしっかりしていない=子どもを望んではいけない」と考えている。
女性	18～29歳	持病があるので子どもができたときに遺伝したらどうしようかととても不安。今までマッチングアプリを使って男性と交流したことがあるが、ほとんどが身体目的だったので男性と交わるのが怖く感じる。好きだった人にひどい言葉をかけられたことがあり今でもふと思い出して辛くなる。
女性	18～29歳	現在は出産に関しては考えていないが、それは自身の抱える発達障害や精神病があり、故に生じる不調の中で二人の人間を育てるということに不安がある。私自身が発達障害を持って生まれ、精神病に悩みつつも、生まれてきたことを悔やんだりはしていない。それは、家族や周りの支援に恵まれてきたからだと思う。だから、この先、絶対に子供が欲しくないとかでは無く、子供を育てられる様々なサポートを受け安心出来るのなら、子供が欲しいと思うかもしれない。
男性	30～49歳	自分の病氣と付き合うだけで精一杯なので、異性と一緒に過ごすことが考えられない。しかし、将来的なことを考えた場合、親、兄弟、身内がいなく、財産や墓など、いわゆる終活をどの時点で行うか等、不安材料が多くある。障がい者が住みよい世の中であってほしい。
男性	30～49歳	愛している女性がいて、もうかれこれ18年付き合っていて、いつの日かが、二人きりの暮らしか、妹さんもいっしょに暮らしたいと、強く希望している。そのために国からの金銭面の支援をお願いしたい。
女性	30～49歳	結婚、出産、子育てすべて経験した。小さい子どもを育てる場合は、逆にグループホームを出た方が育てやすいと思う。(他の入居者さんに泣き声で迷惑をかけてしまうため)
女性	30～49歳	職員さんや家族(特に両親)に本人と向き合って本人の意思も尊重して話をして、本人の言っていることに耳を傾けて欲しい。家族は特に「グループホームに入居しているから安心」と思って本人の言葉に耳を傾けない人も多い。「健常者」とか「障がい者」とか「壁」を作らないで欲しい。
男性	50～69歳	グループホームの中でも周りの理解があれば、結婚生活をおくることができると思う。その中で他者に自分の好きな人が傷つけられなかつたという心配もあるが、それを事前に防ぐ話し合いを皆でもて乗り越えていけると思う。自分にとっては一人で暮らしていた時も本当の自立へ向けての支援が困難に思う場合もあったが、確かに感じとられた人間的成長も含め、受け取り方で良いも悪いも決まると思っている。
男性	50～69歳	結婚はできないと思っていたから誰にも相談していない。他の施設で利用者同士が結婚したのを聞いたことがある。羨ましく思ったことがある。今は結婚したいとは思わない。
女性	50～69才	自分が子どもを育てられるかどうかすごく心配であった。もう少し若いときに自分のように障がいのある人に子どもを産んでも大丈夫と教えてほしかった。子どもについては障害のあるなしに関係なく大変な問題と思う。
女性	50～69歳	好きな人がいても、2人を引き裂こうとする人がいたり、意地悪をしたりする人がいる。逆に自分が同じようにされたら、嫌な気持ちになるのに平気でする人がいる。結婚や、付き合う人がたくさん出来ればいけれど、グループホームにいと、色々難しいと思う。
男性	70歳～	家族等の子供を見て欲しいと思ったことはある。
男性	70歳～	したかったけど相手が見つからなかった。
女性	70歳～	難しいと小さい時から思っていた。

(6) 本アンケートの回答にあたっての支援の状況

問8-1 アンケートの回答にあたって受けた支援（複数回答あり）

* アンケートの回答にあたって受けた支援については、「①内容を説明してもらった」が43.7%と最も多く、次いで「②読んでもらった」が38.3%、「③代わりに書いてもらった」が27.0%となっています。

(n=5,123)



問8-2 アンケートの回答にあたって支援を依頼した相手（複数回答あり）

* アンケートの回答にあたって支援を依頼した相手については、「①グループホーム職員」が60.2%と多数を占めています。

(n=5,123)

